

科学研究費助成事業（特別推進研究）中間評価

課題番号	19H05468	研究期間	令和元(2019)年度 ～令和5(2023)年度
研究課題名	生体機能構築基盤としての上皮バリア学の新展開	研究代表者 (所属・職) (令和3年3月現在)	月田 早智子 (大阪大学・生命機能研究科・特任教授)

【令和3(2021)年度 中間評価結果】

評価	評価基準	
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(研究の概要)		
<p>本研究は、生体組織と外界を隔て、生体内への物質移動を制御する「上皮バリア」について、タイトジャンクション (TJ) による細胞間バリアの分子構築とアピカル面バリアとの連携機構を解析し、生体内における上皮バリア機能の統合原理を解明しようとするものである。</p>		
(意見等)		
<p>上皮細胞の本質的基盤であるタイトジャンクション (TJ) を構成するクローディン分子の構造と機能解明、アピカルバリアと TJ との機能連携 (TJ-アピカル複合体) という二つの軸を中心として、研究が順調に進んでいる。1細胞内で複数種のクローディンが発現していることから、20種以上ものクローディンそれぞれの機能を解析することが困難であったが、本研究では目的とするクローディンに的を絞った新たな解析系を構築することで、これらの問題を克服しようとしており、高く評価できる。TJ-アピカル複合体のプロジェクトに関しても、当初の研究計画で示されたような数理解析を導入した革新的発展を期待する。</p>		